

第19回

AAF 戯曲賞

Aichi Arts Foundation Drama Award

第19回 AAF 戯曲賞募集のお知らせ

第 **19** 回審査員



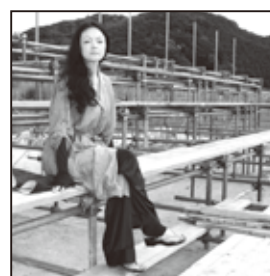
白神ももこ



鳴海康平



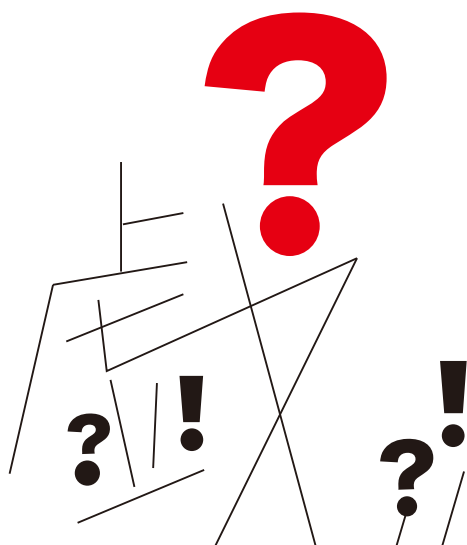
三浦基



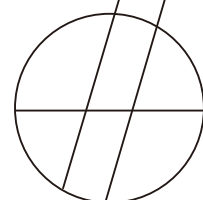
やなぎみわ

応募締切 **2019.07.31.WED**

What is Drama? 戯曲とは、何か？



愛知県芸術劇場
Aichi Prefectural Art Theater



WANTED!

あなたの考える演劇上演のためのテキスト【募集】

MOMOKO SHIRAGA



©北川姉妹

普段、ダンス・パフォーマンス的、と銘打ってひどく曖昧なことをしている私は、人間観察が好きです。なので、たとえ拙なかつたとしても技術がどうかよりも、人がどんな視点でどんな偏り方で「人」や「世界」を観察しているのか、がとても気になります。そして、その世界に人が入り込む余地のある戯曲に出会えることを期待しています。

白神ももこ (演出家・振付家・ダンサー、「モモンガ・コンプレックス」主宰)

東京都出身。自ら作・演出する「モモンガ・コンプレックス」では、ダンス・パフォーマンス的グループと名づけ、ダンス的な要素を用いながら世界の端っこに焦点をあてる。「モモンガ・コンプレックス」以外では、F/T14「春の祭典」(美術:毛利悠子、音楽:宮内康乃)、木ノ下歌舞伎『隅田川』(共同演出:木ノ下裕一、杉原邦生)など。2017年-2018年シーズン文化財団ジュニアフェロー。2019年4月より富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督。

MOTOI MIURA



©松本久木

台詞、台詞、台詞だらけの本が読みたいです。おしゃべりでもなく、モノローグでもなく、物語の説明でもない、そういう台詞に遭遇したいと願っています。それはもしかしたら、宇宙語を解説しなくてはならないことになるかもしれないので、こちらも油断せずに読みしたいと思います。今、わたしたちには、対話の努力が必要だと思います。演劇はその種の努力を惜しまないので、そのきっかけになる未来の言葉を見つけてください。

三浦基 (演出家・「地点」代表)

1973年生まれ。99年より2年間、文化庁派遣芸術家在外研修員としてパリに滞在する。2001年帰国、「地点」の活動を本格化。05年、京都へ拠点を移す。著書に『おもしろければOKか? 現代演劇考』(五柳書院)、『やっぱり悲劇だった「わからない」演劇へのオマージュ』(岩波書店)。10年度京都府文化賞奨励賞受賞。11年度京都市芸術新人賞受賞。13年、本拠地京都にアトリエ「アンダースロー」をオープン。17年、読売演劇大賞選考委員特別賞受賞。

■ **大賞** (1点) **賞金 50 万円**

■ **特別賞** (1点) **賞金 10 万円**

募集内容 と 条件

- ①あなたの考える演劇上演のためのテキストであること。
(外国語のテキストの場合は作者本人の責任による日本語翻訳を添付してください)
- ②既発表・既上演作品も応募できます。(他戯曲賞での受賞歴がある作品は応募できません)
- ③作品点数は一人1点に限ります。
- ④応募作品は書式自由、ただし、A4用紙200枚程度まで。

KOHEI NARUMI



©松原豊

たとえばギリシア悲劇以降、世界中で書かれたドラマの数はいくつあるのでしょうか。もし数えられるのであれば、その総数の9割以上が近代以降であろうと思いますし、その面白さは多岐に渡るはずですが、ただ、何年も何十年も消費に耐え、摩耗することなく読まれ、上演される言葉は限られます。そういう戯曲、そういう言葉に触れたいと願っています。

鳴海康平 (演出家・「第七劇場」代表)

1979年生まれ。早稲田大学在籍中の99年、劇団を設立。これまで国内20都市、海外4ヶ国8都市(韓国・ドイツ・フランス・台湾)で作品を上演。2004年ロシア、08年香港にて研修。12年から1年間、ポーラ美術振興財団在外研修員としてフランスで活動。14年、三重県津市に拠点を移し、新劇場 Théâtre de Belleville を開設。16年~18年の3年間にわたりの台湾と日台国際共同プロジェクトを実施。

MIWA YANAGI



美術館と野外を歩き来しつつ、物語と言葉が、積み重なって山盛りになったり、風のごとく吹き去ったりを、繰り返しているような気がします。壮大に絡まった糸にも、散乱した糸くずにも、綿密な織物にも、独自の美の生成があればそれで良しです。

やなぎみわ (美術作家・舞台演出家)

京都市立芸術大学大学院美術研究科修了。学生時代は工芸を専攻。国内外で多くの展覧会を開催。2009年第53回「ヴェネツィア・ビエンナーレ」美術展日本館代表作家。11年から本格的に演劇活動を始め、美術館や劇場で公演した後、15年『ゼロ・アワー-東京ローズ最後のテーブル』で北米ツアー。16年夏より台湾製の移動舞台トレーラーによる野外演劇『日輪の翼』(中上健次原作)を、熊野をはじめ各地で旅巡業している。2019年10年ぶりの美術館個展が全国巡回中。

審査スケジュール

受付

2019年6月1日(土)
↓
2019年7月31日(水)

2019年10月上旬



一次審査通過作品発表

2019年11月中旬



二次審査通過作品発表

2020年1月5日



最終審査・特別賞決定
(愛知県芸術劇場にて公開審査を行います)

二次審査終了後、一次・二次審査のレポートをウェブサイト公開します。また、最終審査はインターネットによる生中継を行う予定です。

私達からも一言!

羊屋白玉 (演出家・劇作家・俳優、「指輪ホテル」芸術監督 / 第15回~18回AAF戯曲賞審査員)

応募戯曲ぜんぶ読むクレージーな戯曲賞の審査に数年関わって、大変だったけど幸福でした。とはいえ、そろそろお休みしたかったのでわたしは今年お休みします。昨年度の大賞と特別賞は女性作家への授賞でした。数日経って、あれ、これってジェンダーバランスとかかって不穏な気分にもなり、でも特に何もなくて、どうしてわたしがこんなにソワソワしなきゃいけないんだって感じもしつつでした。が、いやしかし、時の事象に敏感に鈍感になりながら、「戯曲とは?」を、審査の周縁で考えたいなと思っています。

篠田千明 (演出家・イベントー / 第15回~18回AAF戯曲賞審査員)

圧倒的なのが残る、それはわかってる、でも私が好きなのは「いいかんじ」のもので、その言葉が上演に関わってるから、テキストで語るならそれは圧倒的じゃないけど、最終審査会では味方するには弱くなる。だけど。審査員はみんな同世代を生きている。テキストで穴があっても、(ゆっくとけどライバルは死んだ全ての作家だよ、歴代作家とくらべながら審査されてるよ、チェーフ、井上ひさし、サラ・ケイン、名前をあげなくてもあらゆる過去の作家がライバルだよ)、やっぱり、今何したらいいか考えてる。射程はそれぞれによる。(今年は審査は休みだけど)最終にあがって公開されるものは全部読む、無責任に、圧倒的に「いいかんじ」のあったら、今年参加できなかったことを虫歯を増やして後悔する。

戯曲とは、何か？

“戯曲とは、何か？”というテーマを掲げて5年目になりました。このテーマは、「今日私たちが過去の遠い地の戯曲を上演するように今生み出されている戯曲を何十年後・何百年後に届けるために何が出来るか」という挑戦です。そのため、上演に関わる代表として演出で活躍されている方に審査を依頼し、全て読んで議論し、選考しています。

毎回応募される作品の豊かさや選考過程での議論の深さに、戯曲の言葉が人を動かす力を持っていることを実感します。劇場の戯曲賞として、様々な人や言葉が出会い新たな可能性を生み出す場でありたい、より多くの声を、言葉を受け止めたい、という考えのもと、審査・上演を通して様々な人に関わっていただきながら考え続けています。

今年も、いつかまだ見ぬ誰かに「上演したい」と思わせる戯曲を待っています。

応募期間

2019年6月1日(土)～7月31日(水)

応募方法

下記提出物を書留郵便または宅配便で送付するか、愛知芸術文化センター地下2階アートプラザに持参してください。持参の場合、7月31日19:00まで。

(E-mailでの応募はできません)

◆提出物：応募票・表紙（作品名・応募者名を明記）・作品概要（A4用紙1枚程度、書式自由）・応募作品

◆応募票は愛知県芸術劇場 ウェブサイトからダウンロードできます。

<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event/detail/000246.html>

◆詳しい応募方法・注意事項は応募要項をご確認下さい。

◆戯曲賞についてのお問い合わせ（審査の内容についてはお答えできません）

E-mail：ws2@aaf.or.jp 052-971-5609（10:00-18:00）



受賞作品について

大賞受賞作品は、戯曲賞受賞記念冊子として印刷・配布され、戯曲賞受賞記念公演として上演されます。

- ・上演時期は2021年度以降を、上演場所は愛知県芸術劇場小ホールを予定しています。
- ・上演は愛知県芸術劇場プロデュース公演とし、演出家・出演者その他公演内容は審査員・作者と協議の上、当劇場が決定します。
- ・上演に際して、作者同意の上、作品を改変・翻案する場合があります。
- ・記念公演終了後その記録映像を作成し、愛知芸術文化センター内アートライブラリー、マルチビジョン、ウェブサイト等で放映する場合があります。



第15回大賞受賞作『みちゆき』

作：松原俊太郎／演出：三浦基



第16回大賞受賞作『それからの街』

作：額田大志／演出：鳴海康平



第17回大賞受賞作『シテイIII』

作：カゲヤマ気象台／演出：振子びじん

これまでの受賞作品・受賞記念公演の映像は愛知芸術文化センターアートライブラリー（愛知芸術文化センター1階）でご覧いただけます。

主催：愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13番2号 TEL 052-971-5609（10:00-18:00）FAX 052-971-5541

ウェブサイト：<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp> E-mail：ws2@aaf.or.jp

※6月の月曜日は電気設備点検のため休館します。ウェブサイトの閲覧やFAX受信ができない場合があります。

助成：文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）| 独立行政法人日本芸術文化振興会